

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
水俣中央地区

平成28年3月

熊本県水俣市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	公園の維持管理等への参加人数	人	231	277	280	確定 ● 見込み	○	あり なし	—	H 年 月	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	市民の憩いの場等を充実させ、市民の交流促進や地域活動の形成・継続を図ることを目標に公園整備を行った結果、市民の機運が醸成され、公園の維持管理棟への参加人数が増加したことから本事業の効果があつたと考えられる。
指標2	観光客入込み数	人/年	144,000	144,000	139,032	確定 ● 見込み ●	△	あり ● なし	102,956	H27年6月	×	①気候及び天候要因による観光客の減少②改修に伴うフィッシングパーク一時閉鎖を起因とした利用者の減少③台風上陸接近による海水浴客・観光客の減少 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	23年度からの25年度までの観光客入込数の傾向から26年度の数値想定を増加と試算していたが、天候、気候や施設の状況により、減少に転じたと考察している。
指標3	温暖化対策の満足度	%	4.2	15.0	15.1	確定 ● 見込み	○	あり なし	—	H 年 月	—	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	環境モデル都市にふさわしい低炭素社会の形成を推進を目標に、自転車利用環境の充実等を行なった結果、温暖化対策の満足度が向上したことから本事業の効果があつたと考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1						確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2						確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3						確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	各種公園施設の機能維持	①住民等の公園維持管理への参加促進を図り、公園の維持管理を検討している団体や個人に対して、積極的に相談に応じた。	①アドプトに参加する団体がH27年度において1件増加し、公園機能の維持効率が向上した。	・地域住民が主体となって行なう公園管理を実施するアドプトについて、現在の維持管理体制を継続支援していく必要がある。
	交流人口のさらなる拡大	①湯の児温泉街の観光情報について、タウン情報誌「タンクマ」や「みちくさ」などへの掲載や、ラジオ番組「いい旅観光熊本塾」などでの放送など、情報発信を行なった。 ②平成27年度において、計4回、湯の児地域の観光関係者を交えたワークショップを開催し、交流人口増加に資すると考えられる事業等についてのアイデア出しなど意見交換を行なった。 ③平成27年春に市道湯の児海岸線(通称:湯の児チェリーライン)の一方通行期間を設け、平常時には困難な、車輦からの桜の観覧の機会を設けて地域の魅力向上を図った。	①継続した市外への観光情報発信を行い、認知度の向上が図られた。 ②ワークショップの結果、「湯の児地域でのダイビングツアー」や「タツノオトシゴをツールとした湯の児の情報発信」、「海上のカキ小屋」などの提案が出された。 ③湯の児チェリーラインのさらなる魅力向上につながった。	・交流人口拡大のための事業(イベント等)を継続していく必要があるが、事業(イベント等)を持続可能なものにするため、行政主体ではなく、地域の理解を得ながら市民(観光関係者・地域住民・市民有志等)と行政が協働して事業実施する機運の醸成が必要となる。
	市レンタサイクル及び自転車利用の促進	①修理や緊急時対応など、自転車の維持管理に臨時職員1名を配置。利用者が快適に利用できる環境を整え、自転車利用の促進を図った。	①レンタサイクル会員登録者数(利用者数)が整備後のH26年度から27年度にかけて増加し、環境負荷の低減につながる自転車利用社会の構築が進んだ。	・現在のレンタサイクルの管理体制を継続し、利用者が利用しやすい環境を維持していく必要がある。
改善策	—			
・まちづくりの目標を達成するための改善策	—			
・残された課題・新たな課題への対応策	—			
・その他 必要な改善策	—			

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項